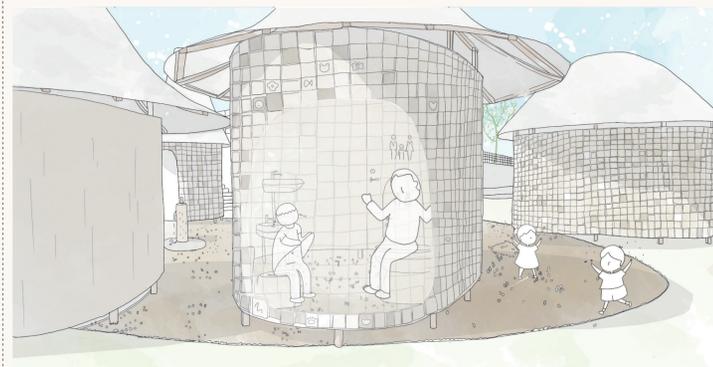
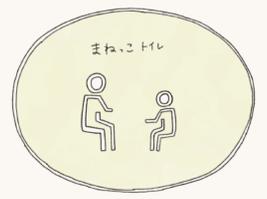


# トイレの森



まねっこトイレ

もしもしトイレ



親と子どもが向かい合って一緒にトイレをするエリア。怖い印象を持っている子は一緒に入れることで、安心してトイレができることや、子どもは親の姿をまねてトイレの仕方を学ぶことができる。普段トイレというものは他人から見られないため、親も少し恥ずかしい、新鮮で楽しいエリア

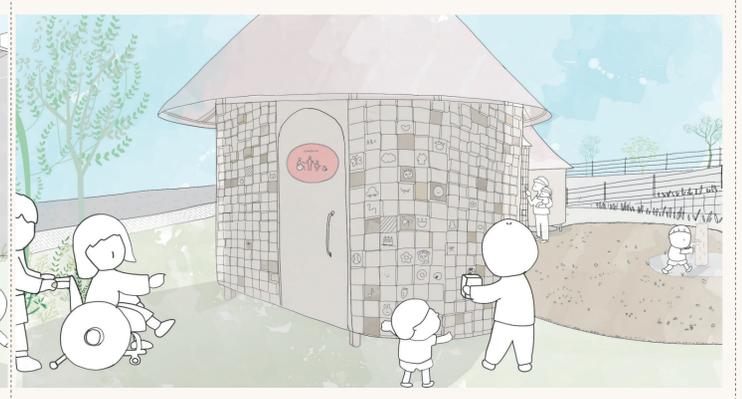
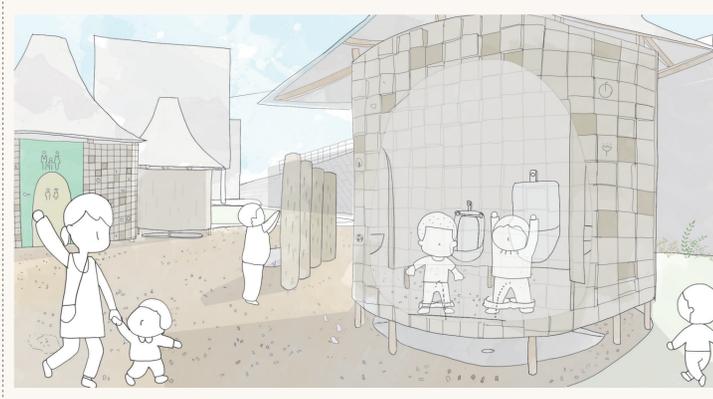
伝声管で外の友達や親とお話できるエリア。公園の遊具にもある伝声管を使い、トイレと遊びを一体化した。子どもの好奇心を湧かせ、ここでは一人で初めてチャレンジするきっかけにもなる場所。

01 現状

子どもにとってトイレは遊びを妨げるものであり、また特に小さい子にとっては「ご飯をたべること」「着替えをすること」と違って、「排泄すること」は普段の生活で目にするのが少なく、怖く感じることもある。そこで、単に用を足す目的だけのトイレではなく、ここのトイレだったら楽しくトイレできる、トイレに行くこと自体に好奇心や探求心が湧く、そしてこどもの姿を見た大人にとっても新たな発見や会話の生まれる、そんなトイレを実現する必要があるのではないかと。

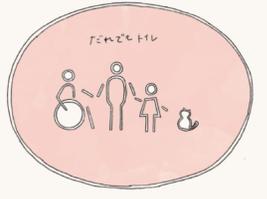
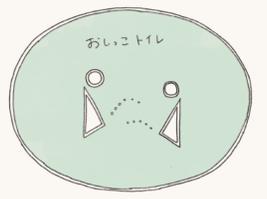
02 計画

トイレエリアを1つの遊びの場として捉え、子ども達がまるで遊具で遊ぶような感覚でトイレに行くことのできるトイレを提案する。排泄することが楽しくワクワクにつながるよう「まねっこトイレ」「もしもしトイレ」「おしっこトイレ」「みんなのトイレ」の4つのエリアをつくり、こどもの成長段階に合わせた遊び、学べるトイレを計画した。  
また、巨大な木をイメージした遊具や、まわりの木々のようにトイレも木をモチーフに計画し、小さなボリュームに分散し、ゆるやかな円を描くよう配置することで、森の遊び場のようなトイレエリアを計画した。こどものワクワクはもちろん、大人にとっても新しさ、発見があり、ここならではの体験となる。



おしっこトイレ

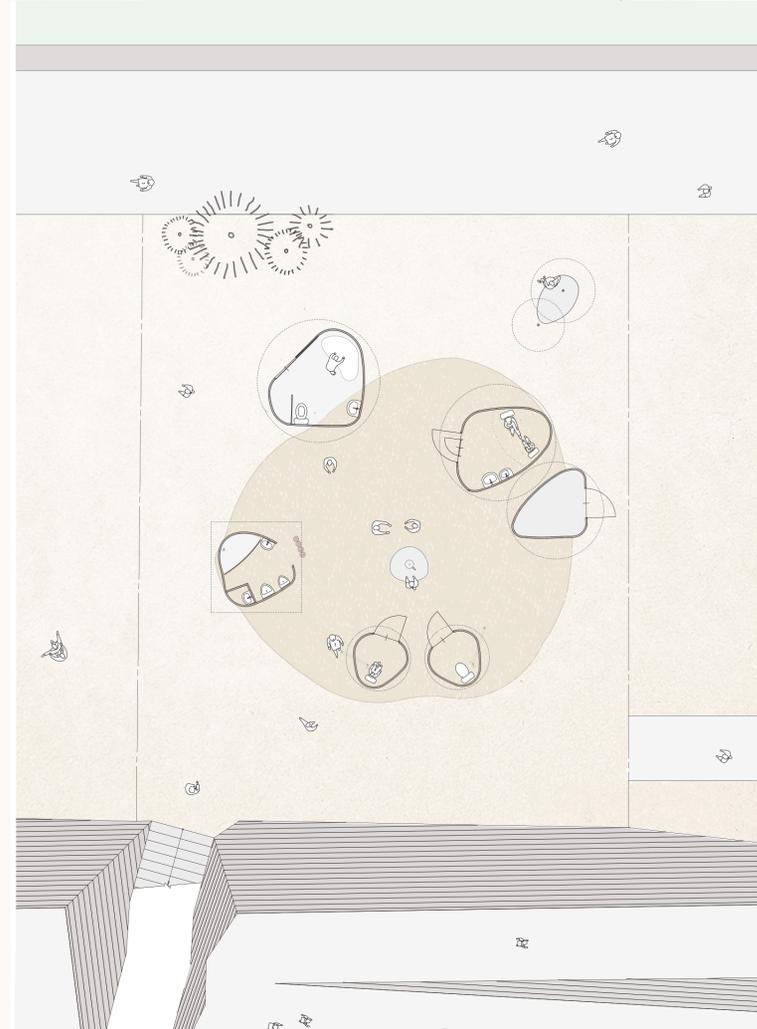
みんなのトイレ



男の子が遊びの一部のように排泄という行為が楽しめるエリア。なるべく縛りのない自由な状態で排泄できるように流し場のような広いスペースとなっており、友達や親と入りトイレというものを楽しめる場所。

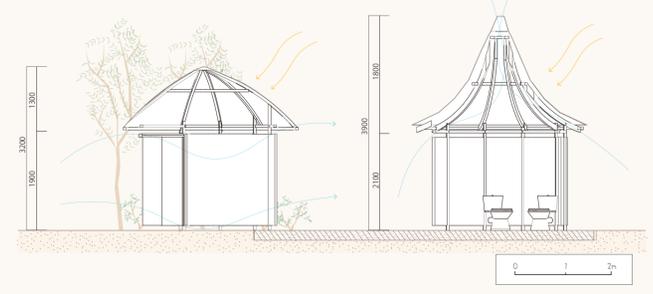
さまざまな状況に対応できる広いスペースのあるエリア。車いすの子供がいても不自由なく通れる段差のないスペース。さらに床からキノコのテーブルが生えており、どろんこになった子などが着替えられるちょっとしたスペースもある。

03 構造



建物をつなぐように地面にウッドチップを計画。ウッドチップはトイレの嫌な匂いを消す消臭の役割を持ち、代わりに木の香りを感じさせ、清潔感のある空間へと変える。また、子どもたちは柔らかい踏み心地の地面を走り回り、この場所を遊びの空間へと変える。定期的に補充するだけで管理できるのでライフサイクルコストへの対応も可能となる。

07 断面図



08 立面図

